

県南さんぽだより 第47号

発行所 茨城県南地域産業保健センター TEL 0297-79-1066 FAX 0297-79-1068 発行人 大西 慶造
ホームページアドレス <http://www.intio.or.jp/m-sanpo/>

「精神科医療に携わって」

竜ヶ崎市・牛久市医師会 会長、池田病院 院長 池田 八郎



私が、大学を卒業した1968年から46年が過ぎ精神科医療がどのように変化、進歩してきたのか、また、精神科疾患がどのように国民に理解されてきたのか、考えてみたいと思います。

医学部を卒業した頃はインターン制度に反対し、国家試験をボイコットなど、学生運動華やか時代でありました。その年の6月には、安田講堂を学生が占拠、翌1968年には、精神科病院の不祥事が各地で発覚。第66回日本精神神経学会（全国大会）では、当時の理事長、理事の解任、一方、3年後の1971年には、浅間山荘事件があり、尊い若い命を落とした事でも忘れられない年でありました。

一方、東大全共闘による赤レンガ病棟自主管理会議が開始され、医局の問題も取り上げられた年でもありました。

私事ですが、1972年秋に、大学院を卒業し出張病院にて働き出した頃でした。その当時の精神保健行政に目を向けると、1973年には、「ルポ 精神病棟」という本が出版され、精神科の患者さんになりすました記者が、精神病棟の様子を国民に知らされた本であります。興味のある方は、一読すれば、当時の精神科病院の一日の生活パターンを垣間見る事ができると思います。

当時の出張病院は、東京の下町に存在、院長先生が、患者さんの社会復帰に熱心でありまして、精神科医師に加えて臨床心理士、ケースワーカー、現在の精神保健福祉士を多く配し、患者さんの社会復帰に努力しておりました。この病院の院長先生の存在、医療（精神）に対する考え方が、現在の私に多く影響しております。大学では、統合失調症に対する研究が主でありまして、私の医局でも精神生理班、生化学班、家族研究班（精神病理）、脳波班に別れて、盛んに学会に発表しておりました。結論といたしまして、いまだに統合失調症の原因は解明できておりません。

当時の精神科病院には、鉄格子が入っており、一部開放病棟はありましたが、殆ど精神科に入院している患者さんは危険な外出なども制限を受けておりました。ちなみに統合失調症の患者さんの他に進行マヒの患者さんも多く入院しており、ルンバールは日常茶飯事的

に施行し、上手になりました。

統合失調症に戻して話してみたいと思います。その頃の治療は、クロールプロマジン、続いてハロペリドールが、日本でも使用され患者さんの鎮静はできました。それ以前は電気ショック療法、持続睡眠療法などがあり、私の先輩から教えられました。

初期の抗精神病薬は、鎮静作用はあるものの、副作用が強く、パーキンソン病症状、その他の症状も出現し、非定型精神病薬の出現まで、かなりの時間を要しました。

非定型精神病薬についても、国は多剤投与を問題視し、制限を設けております。

ここでは、その点にはあえて触れず、精神保健行政のその後の歩みについて話をもどします。

昭和から平成に入り、昭和62年（1987年）には、精神衛生法→精神保健法に変わり、平成5年（1993年）には、医療保護入院、応急入院のための移送制度、精神障害者地域生活支援センターの法定化。

平成13年（2001年）には、池田小学校事件があり、それを受けて平成15年（2003年）医療観察法が成立。重大な事件を起こした対象者を、国が設置した医療観察病院に入院させ、社会に復帰させる制度ができた訳です。

この医療観察法に少し触れたいと思います。

小生も、医療観察法の鑑定医、判定医として重大な事件（殺人、放火、傷害等）を起こした対象者に対して関わってきました。すでに、この制度が発足し、10年経ち、見直しを国は考えている訳です。本年11月28日に厚生労働省に行き、その勉強会に出席して参りました。

さて、平成16年（2004年）には「入院治療中心から地域生活中心へ」という基本的な方策を国も進めて、今後10年間で、7万床減少を促すとしていましたが、精神科病床の減少は遅々として進んでおりません。受け皿がないのが現実であります。

一方、平成17年（2005年）には、障害者自立支援法が成立し、障害者の就労等に力を入れております。

平成25年（2013年）には従来の4疾病に（糖尿病、脳血管障害、癌、急性心筋梗塞）に精神疾患が加わり

5 疾病 5 事業になりました。

平成26年（2014年）は、精神保健福祉法が改正され、保護者制度廃止、医療保護入院の見直しがされました。

ここで、精神科病院の在院日数について触れたいと思います。70日と減少しております。これをどう評価するかはここでは触れません。先程述べた非定型精神病薬の多剤併用も年々減っております。最後に認知症、気分障害について記載し責任を果たしたいと思います。

精神科を受診する患者さんには、どのような疾病があるか、挙げてみたいと思います。圧倒的に多いのは気分障害（うつ病 他）続いて統合失調症、認知症と続いております。傾向と致しまして、気分障害や、認知症（アルツハイマー型、その他の認知症を含む）が増加しております。ここでは、認知症の診断、治療については触れません。

認知症高齢者の居場所は、居宅、介護老人保健施設、医療機関、グループホームです。国の施策では、社会全体で認知症の方を支える方向付けをしております。その為には、認知症疾患医療センターを中心にして、地域包括支援センター、認知症サポート医、かかりつけ医を含めて関係団体、民間企業などの協力を得て、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりが必要です。

気分障害について、専門医、産業医として関わっておりますが、重症例の気分障害、たとえば、自殺念慮がある患者さんは、入院治療が必要です。

これらの気分障害の患者さんは、当然会社を長期にわたって休職します。

以前は主治医の判断で、休養加療～復帰可能という診断書を提出し、産業医が面談し会社に復帰しておりました。現在はリワークプログラムで一定の期間、専門のスタッフの下、復帰プログラムを実施し、プログラムを終了して会社に復帰するのが通例であります。

以上、思いつくまま述べてまいりましたが、これからの精神科医療は、気分障害（うつ病）、認知症が、重要な疾患であります。認知症に対しては、家族はもとより、地域全体が見守る必要があります。うつ病に対しては、自殺問題を含めて早期の対応、即ち、疾病のサインを見逃さず、周りの人達の又、いのちの電話を含めた、SOSできる人材の確保が必要と思います。小生は今後も地域の精神科医療に関して専門医として、頑張る所存です。

【県南地域産業保健センターから】

2014年12月17日（水）に労働衛生管理セミナーが開催されました（健康づくり連絡会との共催）

当日は、龍ヶ崎監督署 工藤署長より労働衛生の最新情報等について挨拶をはじめ、特別講演としてくすの森心理相談室代表 木村正治先生より「認知行動療法について」お話をいただきました。

活動報告では、

竜ヶ崎地方事業所健康づくり 会長：山海 知子

県南地域産業保健センター

コーディネーター：大西 慶造

また最後に茨城産業保健総合支援センターより

「メンタルヘルス対策支援について」：中山 一史
今回40名の参加者で終了後も質疑応答で数名の方が残ったセミナーでした。

◆◆メンタルヘルス対策はお済みですか◆◆

中小規模事業場の取組を重点的に、職場のメンタルヘルス対策への取組を支援しています。

1. 事業場を訪問し、メンタルヘルス対策への取組を支援します

メンタルヘルス対策の取組方法がわからなくてお困りではありませんか？メンタルヘルス対策促進員（カウンセラー・社会保険労務士等）が、事業場に伺い、事業場のメンタルヘルス対策への取組を支援します。

費用は無料です。

- ・メンタルヘルス対策は、何から始めたらよいか
- ・メンタルヘルス対策のために、どんな事業場内体制が必要か
- ・従業員にメンタルヘルスについて知って欲しい
(教育研修)
- ・こころの健康づくり計画を策定したい
- ・退職者が出たら、どのように対応すればよいか

2. 管理監督者に対するメンタルヘルス教育を行います

管理監督者が「いつもと違う」部下の様子に早く気づくことが大切です。メンタルヘルス対策促進員（カウンセラー・社会保険労務士等）が、事業場を訪問し、管理監督者に対するメンタルヘルス教育を行います。

1 事業場 1 回に限り、無料で実施できます。

- ・メンタルヘルスの現状（ストレス状況、自殺など）
- ・ストレス及びメンタルヘルスケアに関する知識・管理監督者の役割（部下への対応、傾聴など）
- ・職場におけるメンタルヘルス対策（4つのケア、職場復帰支援など）

3. メンタルヘルス対策に関する相談に応じます

事業場でメンタルヘルス対策に取り組まれている産業保健スタッフ（産業医、産業看護職、衛生管理者、人事労務担当者等）を対象に、産業保健相談員が、メンタルヘルスに関するご相談に応じます。

予約制で、当センターでの面談、または電話での相談をお受けします。費用は無料です。

「働く人のこころの健康相談室」（毎週金曜日）

「職場のメンタルヘルスなんでも相談」（月2回水曜日）

「専門のカウンセラーによる産業看護職のためのスーパービジョン」（月1回第4木曜日）

「精神科医による個別相談」（月1回第4木曜日）

詳しくはこちらをご覧ください。

<http://www.ibaraki-sanpo.jp/mental-sien/>